

マザーハウス たより

あなたは愛されるため、また、愛するために生まれてきたのです。あなたが必要であり、大切です。マザーハウスはあなたの家族です。



移送・出所される方は、必ずご一報ください。

表紙：Y・Kさん

2018

6 月号

- | | |
|---------------|----------------|
| 2 理事長挨拶 | 16 塀の中のたより |
| 4 社会の声 | 22 Lovely DAYs |
| 9 特別コーナー | 22 健康相談窓口 |
| 15 ささきみつおコーナー | 23 つぶやき！ |
| 16 育児日記 | 23 行事予定 |

理事長挨拶

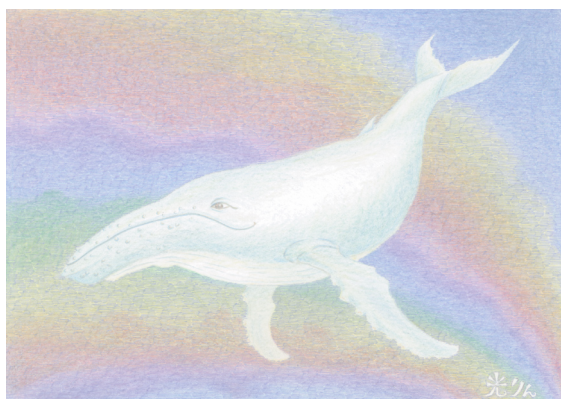
早いもので、今年も六か月が過ぎようとしていますが、皆さん、いかがお過ごしでしょうか。

先日、前橋と宮城の住所者を受け入れましたが、部屋を用意して早々に裏切られてしまいました。生活保護申請の手続きや食費、生活用品をはじめ、多くの方々の支援をいただいたにもかかわらず、平気で人を裏切ることには悲しみを感しました。刑務所で何を学んできたのだろうと思います。人から愛され、必要とされ、大切にされたことのない者は、このように、相手のことを考えることもしないし、自分さえよければ良いという考えで行動するのでしょうか。

私が思うには、刑務所の状況や職員にも多くの問題があると感じます。どんな人間に対しても、人としての人権を尊重することが大切であると思います。

マザーハウスの住所者受け入れについて、「貧困ビジネスである」と根も葉もないことを言っている人がいますが、具体的にどういったことが「貧困ビジネス」なのでしょう？誤解があるみたいなので、この場を借りて当法人のシステムについて書きたいと思います。

当法人は、「日本国憲法第二十五条に規定する理念に基き、国が生活に困窮するすべての国民に対し、その困窮の程度に応じ、必要な保護を行い、その最低限度の生活を保障するとともに、その自立を助長すること」（第一条）と生活保護法にあるように、社会復帰した人々の回復および生活・住居の支援を実施しています。



光りんさん

マザーハウスでは管理はせず、自由です。だから、金銭管理も本人がします。生活保護は、申請者（受給者）が保護費等を受理し、申請者以外の者が保護費を受理することはありません。ただし、一か月間、保護費が足りないような行動をしていけば、注意はします。また、賃貸物件の家賃をいただきますが、それは、当法人が本人に貸した家賃を生活保護法の住宅費から返してもらうため、必ず役所に代理納付の手続きを取っていただいています。

その他、マザーハウスが受け入れた住所者は、当法人が実施している当事者ミーティング、APS研究会、講演会、ボランティア活動、勉強会などに積極的に参加していただきます。何故ボランティア活動に参加するのかについては、自分の時間を捧げて人のために行動すること、相手のことを考えることを学ぶためです。ボランティア活動では感謝の言葉をいただきます。また、人との触れ合いがあります。

受刑者の皆さん、社会はとても厳しいです。だからすぐ再犯をして戻ってしまうのです。「自分は大丈夫である」と言う人がいますが、そういう人が一番危ないのです。

覚せい剤事犯で刑務所にいる人たちがら、「仮釈放で早く社会復帰し、真面目に生活したいので身元引受人になってください」と手紙が来ますが、腹の中では違うのです。覚せい剤はそう簡単に止められません。自分がすぐ覚せい剤に手を出す者であり、止めることがとても難しい、ということをしきりと認識している者は回復すると思います。

マザーハウスにいるOさんは覚せい剤で刑務所に入りました。彼は、十九年という長期の薬物依存でした。しかしマザーハウスと出逢い、毎週、聖書の学びに参加するようになり、覚せい剤が、聖書の十戒にある「汝、殺してはならない」という掟にあたると神父様から教えていただき、キリストに生きる道を選びました。彼は積極的に当事者ミーティングやボランティアに参加しています。今は大学での講義にも一緒に連れて行き、話をしてもらっています。私は何も言わず、突然マイクを渡し、話をさせます。それは、生の声を学生たちに聴いてもらいたいです。そして彼が二度と覚せい剤に関わることを選ばないためです。

先日、韓国の法務部の方七名がマザーハウスを訪れ、私と面談してくださいました。

韓国では、日本と違って、元受刑者が刑務所に行き、メッセージを語り、交流していると聞きました。法務部の方々は当事者の声を真剣に聞いてくださり、また、以下のような質問を聞かれました。

「機関の主な現況と元受刑者の再犯防止と社会復帰のために、どのような事業活動をされていますか？」

「事業活動の具体的な内容とそのプログラムに参加する元受刑者の態度はどうですか？」

「韓国の場合は元受刑者に対する偏見で求職や安定的な社会復帰に困難が多いです。日本の場合も同じように考えられますが、今までの元受刑者の再犯防止するために施行した再犯防止プログラムの効果はどうですか？」

「元受刑者の安定的な社会復帰のために矯正期間（収容期間）で施行されたら良い制度やプログラムがありますか？」

「これらについて、私が思っていることをお話しさせていただきました。日本の法務省が、マザーハウスのような団体にいる当事者の声を全く聞いていないことにびっくりしていました。そして、「今後、韓国の刑務所を視察してください」とのお話もいただきました。

六月四日に、小田原少年院から仮退院した少年を受け入れました。彼は一度マザーハウスを裏切った者ですが、弁護士から、「彼が、マザーハウスの五十嵐さんのところに戻ってやり直したい、と言っているのですが、お願いできないでしょうか」と言われて引き受けました。

彼は、赤ちゃんの頃から施設で育っており、家庭の愛を全く知らず、愛されるという体験をしていません。彼にとつて、両親は恨みの対象でしかなかったのではないのでしょうか。私ができることは、キリストの愛を持って彼と交わることです。幸いなことに、彼は素直です。



光りんさん

少年が出所した日、聖書講座がありました。私は、「クリスチャンになれとか、信仰を持てとかは言わない。それは君が決めることです。ただし、日本の刑法の原点はこの聖書から来ている。聖書の十戒にある『汝、殺してはならない。汝、盗んではならない。汝、姦淫してはならない』を学ぶために、聖書の話每周、聴きに行くけど、一緒に行くか」と誘ったら、「行く」と言うので、当事者スタッフやボランティアスタッフの大学院生が通っている講座に参加しました。

その日はちょうど、マルコの福音書の「医者が必要とするのは丈夫な人ではなく病人である。私が来たのは正しい人を招くためではなく、罪人を招くためである」（マルコ二章十七節）という言葉が取り上げられていました。

彼は、マザーハウスに来て数日経たないうちに、無断外泊など、仮退院の遵守事項を破りました。そのことで、私やスタッフ、保護司は何度も彼に電話したり、彼のために夜明けまで動き回りましたが、肝心の少年は連絡を全くせず、「犯罪をしていないから良いでしょう」という態度です。

今日、再び彼を受け入れ、保護司とともに彼と話し合いましたが、彼が自分と出逢うことを切に願っています。

恩義というものが分からないのだと思います。これからは噛み砕いて一つずつ彼に伝えていく予定です。自分の息子より世話がやけるなあと思う今日この頃です。

教皇フランシスコが刑務所に行く理由は、キリストに触れるために行くのだと思います。マザーハウスも、毎日キリストと触れ合うことができる活動をしていきたいです。

マリア・カフェ、相談室、当事者ミーティング会場等に使用する部屋のリフォームの為に「ご支援していただきまして、本当にありがとうございます。五月に電気工事をする事ができました。おかげ様で、作業をする時に灯りがあることの喜びを感じています。

これから様々な修繕が行われますが、スタッフの思いが詰まった部屋にしていきたいです。今後とも「ご支援をいただきました、よろしく願いいたします。



一兵さん

社会の声

立命館大学

講演後アンケート

* 去年の十二月、マザーハウス修学旅行時に立命館大学の学生たちに向けて講演した時の感想・意見をご紹介いたします。

(先月号のつづき…)

☆

刑務所や矯正施設内での厳しい制限は、出所後の社会の変化についていけず、心身ともに何も解決しないまま追いつまれてしまうことにつながる。そうではなくて、カウンセリング、職業訓練、日常生活を営むのに必要な知識の勉強などを行うことが大切であるように思う。

☆

犯罪者は生まれながらにして犯罪者ではなく、本来はただの一人の人間である。いつ誰が犯罪者になってもおかしくないともいえる。罪を犯してしまうか犯さないかの違いは、他人を思いやる気持ちがあるかないかで生まれる。この思いやる気持ちというのは愛によって育まれる。つまり、愛のある社会が犯罪者を生み出すことを防ぐことになるはずである。

罪の原因は必ずバックグラウンドにある。罪だけを見て個人を責めるのではなく、その罪を生み出してしまった社会のあり方に対しても目を向ける必要がある。更生できない人はいない。しかし、反省と違って更生は一人ではできない。助けてと言える社会、ひろってくれる社会が犯罪者を減らし、また、罪を犯してしまった人の更生に必要である。

☆

今回のお話を聞いて、わたしたちが知っている刑務所というのは、本当に表面上のものだけなのだという事にとっても驚いた。実際に体験した五十嵐さんのお話を聞くことは、本で読んだり、講義で得たりした知識とはまた違った視点からの内容で、とても貴重な経験となった。

☆

資料には、「犯罪がなくなることが一番だが、過ちを犯したとしても、罪を償えば社会復帰ができる社会を作る必要があり、その社会を作るのは私たちである」と書いてある。以前までは他人事のように考えていたが、自分にもできることがあり、積極的に社会復帰を支援する環境を作っていきたいと考えた。

☆

お話で、印象に残った言葉がある。「人は人との交流で変わることができる」。人は、誰かと出会うことによって何かを得ることができ、繋がることできる。

犯罪は、犯してから元の状態に戻ることとは不可能である。誰かを傷つけ、悲しませてしまう。そして、誰かに言われた時に初めて、自分の犯してきたことがどれだけ人を傷つけ、苦しめているかに気付く。やつてしまったことは元には戻らない。しかしそこで、赦してくれる人、赦しの場所があれば、立ち直っていくことができる。その場所こそが社会であり、刑務所であると感じた。誰もが人生の中で失敗することがあるが、それを反省し、更生できる世の中にしていくことが大切である。

☆

今まで私が知らなかったことで驚いたことがありました。刑務所内でのいじめです。

講義では、談笑も許されず、個人の自由はほとんど保障されていないと習っていたので、私は、刑務所内では集団は形成されることがなく、そのため、皆が孤独で他者に対して干渉することもないだろうと思いついていました。なので、いじめがあるという事情を聞いて驚くとともに、「言われてみれば、ヤクザの人と共に生活していればイジメもあるだろうな」と納得もしました。



光りんさん

☆

犯罪者だからという理由で、刑務官も守れないようなルールを押し付けて、人間扱いしないような行きすぎた支配服従関係は、もはや刑罰の域を超えており、犯罪者の社会復帰を目指した刑罰執行とは言えないのではないかと思います。

私たちは、「危険な犯罪者は閉鎖的な刑務所に押し込んで知らないふり」をするのではなく、お話にあったように、いざ社会復帰する人たちと文通するなどして社会との繋がりをもたせたり、社会復帰後に弁護士に様々な面で協力を要請したり、働く施設など、社会で生きていく場所を提供するなどのサポートをしなければ、せっかく社会復帰してきた人たちを再び刑務所に送ってしまうという悪循環を止めることはできないと思う。

私たちの犯罪者への冷たい態度、認識が、犯罪者を生み出す要因にもなっているのではないかと改めて思った。

☆

刑務所の中に入った人にしかわからない、伝えられない、熱量のこもった話で、とても衝撃的でした。

中でも、犯罪者が、同じ人間でないかのように世間に扱われるという話が一番印象的でした。

その話を聴いた時に、日常においても同じような発想に触れていることに気づきました。ツイッターなどのSNSで見かける、厳罰化を推進する層の意見がそれにあたると思います。

SNSにおいて、犯罪者＝悪い奴だらもつと罰を与えるべきだ、という意見が一定数見受けられます。これは、「犯罪をした時点で、一般人と同じでない」と言っていることと同じだと言えます。さらにこの考えを発展させると、「犯罪者は人間として扱わなくて良い」との結論が出ることもあり得ると思います。

犯罪をしたということで、犯罪者も同じ人間だという当たり前のことを忘れてしまふ人は、やはり多いのだろうなと思いました。

☆

「罪を犯した人も元々は同じ社会にいて、いずれ社会に戻る」、という内容の話を聞いて、同じ社会を生きる人間同士、もっと支え合う必要があるのではないかと感じる事ができた。

☆

五十嵐さんが今日の講演で一番伝えたかったことは何だっただろうか考えると、「犯罪者が真に社会へと復帰できるように、今の社会の在り方では不十分だ。犯罪者本人が変わるのは当然のことだが、社会の側もそれを受け入れる意識や働きが必要だ」ということではないかと思った。

事実、社会の一般人は犯罪者に対して強い反発意識があることは確かである。しかし、だからと言って、せっかく刑務所から更生の意識を持つて出所してきた元犯罪者の人たちを、我々社会が拒めば、また彼らは再び非行・犯罪へと走ってしまうということになってしまう。今日の五十嵐さんの講演からは、その思いが強く感じられた。



河童さん

社会の側の意識の方が、今の日本社会の再犯率の高さの大きな要因の一つという風に考えるならば、あまり軽視できる問題ではないことがよく分かった。

福祉や生活保護の行政機関の対応の違いなど、五十嵐さんが悲観していたことには凄く共感を覚えた。地方の行政公務員職を将来志望している私にとつては、また改めて考えさせられる問題であると感じた。

☆

憲法で個人の尊重が定められているにもかかわらず、刑務所での生活では、事あるごとに許可をとり、指示通りの事しか出来ない。これでは個人の尊重もなく、人権は無いも同然であると感じました。刑務所に入るような人こそ、個人として尊重することが重要であると思えます。

出所後、日本では再犯率が高いということからも、今の刑務所に意味はあるのか疑問に思いました。

ノルウェーの刑務所では、私たちの住む社会と同等、またはそれ以上とも思えるような生活環境で受刑者は生活しているそうです。

今回の話を聴いて感じたのですが、普通の生活環境でなく、少し複雑な事情にあるような人が道を踏み外しやすいように思います。そのような人こそ、普通の環境で人とコミュニケーションをとりながら刑務所で生活することが、更生につながり、社会に出てスムーズに適應できると思います。

☆

「殺人、覚醒剤以外の犯罪はやりました。」という発言に最初はビビってしまいました。というのも、それは五十嵐さんが「犯罪者である」という、犯罪者に対する偏見が働いたからです。しかし、それは話を聞くことで改められました。

五十嵐さんは私たちと同じ人間であり、人生の中の境遇から罪を犯してしまっただけで、それは私たちにも到底起こりうることであり、それだけで相手に偏見の目を向けることがどれだけいけないことが理解できました。

☆

五十嵐さんのお話を聞いて、刑務所の中で受刑者が自分の今後について考える機会を設ける必要があると感じました。

必要のない人間はいません。刑務所から出た後に何を考え、何をすべきなのか。そういつたことについて深く一人一人考えるべきであり、また、そうやって考えるためにサポートしてあげる人も、刑務所には必要だと感じました。

☆

今回、お話を聞いて、「更生（回復）」とは何なのか、改めて考えさせられました。

刑務所内での生活の話は、私には非常にショッキングな内容でした。しかし、私にとってショッキングな内容が刑務所で当たり前のように行われているのも事実です。そして、何をするにも許可が必要で、社会とのかかわりもあるかないかという生活が、本当に受刑者にとって「更生」となりうるのか、とても疑問に思いました。

例えば、小さい子どもが悪いことをした時に、親が「何をしたことが悪いのか」や、「悪いことをしてしまつたら、どうするのか」を教え、また、一人で考えることが難しい時には、一緒になって考えると思います。この例を、受刑者の方を子どもの立場としたときに、親にあたる人が、今の日本の社会や刑務所には、ほ

いない状態、またはそれに該当するものが機能していない状態にあるのだということとを、改めて痛感しました。

五十嵐さんが、「反省は一人でできても、更生は一人ではできない」とおっしゃっていました。このことはとても共感できました。私は、落ち込んだときに友人と話すと心が軽くなることがあります。それは、受刑者の方も同じだと思います。五十嵐さんがおっしゃっていたように、同じ「人間」だからです。

だからこそ、刑務所の「更生」はどこか間違っていると思いますし、社会も「更生」には社会の協力が必要であることを知り、どうやって「更生」し、社会に復帰した後も当たり前前に社会の一員であり続けられるかを考える必要があると思います。



河童さん

☆

五十嵐さんは、元受刑者の方ということで、その方から「刑務所は犯罪の養成所だと思う」という言葉が出てきて、海外ならともかく日本ではそういうことはないと思っていたのでショックでした。

また、知的障がい者の方が通常の刑務所に収監されている実態があつたそうので、通常の刑務所に入れて意味があるのかと仰っていました、全くその通りだと思います。

☆

五十嵐さんの話を聞き、自分の考えが変わった。

やはり、犯罪者という立場は、昔からの先入観で、元々ルールや秩序を守れない性格で自分本位の人がなるものであり、刑務所も、世間の体裁のためにあるだけで更生を求めている、と思っていたが、そんなことはないと感じかされた。

そして、今までの自分のような価値観を持った人たちが、決めつけで犯罪者を見ているために更生できない部分もあると感じた。

「反省は一人でできるけど、更生は一人でできない」「社会復帰するためには愛情が必要」と五十嵐さんがおっしゃっていたように、犯罪者は救いの手を待っていて、そこに手が差し伸べられるような世の中を作っていくべきだと思う。

罪を犯した人を根っからの犯罪者と決めつけてしまうようでは、更生なんて絶対に無理だと思うし、やはり、理解をすることが大事で、今一度、「罪を憎み、人を憎まず」という昔の言葉を思い出す必要がある。

☆

私が読んだことのある漫画では、刑務所内では多少のトラブルがあっても、「それなりに」楽しく生活できる、といった描写が見受けられた。これこそ刑務所の「良い面」のみが社会に映し出され、「悪い面」は闇に葬られている現実をあらわしたものの一つではないだろうか。

☆

私は、罪を犯したら、自由が制限されている塙の中で罪を償わせる目的自体に特に異論はないが、今回の講演や普段の講義を聞いて、刑務所の中の生活はあまりにも行き過ぎたやり方だと感じた。

死刑囚を除けば、刑期を終えて社会

復帰する人が多数だと思うので、こういった刑務所の劣悪な環境を改善するために、受刑者が社会復帰をする際に刑務所で身に着けたスキルを生かせるような環境を作るべきだと思う。

例えば、資格を取得できるような勉強会を開くとか、調理方法を学ぶことだけでも、劣悪な環境が変わると思う。そして、そういった資格を出所後にすることによって、雇用口も増え、路頭に迷って再犯に走る元受刑者も減るのではないかと私は感じる。しかし、犯罪者を雇いたくないという企業が多数だと思うが、こつたときに手助けをするのが周りの人々なのだと思う。

☆

受刑者が本当に更生し、社会復帰をしていくには、刑務所と一般社会を切り離している今の状態を変える必要があると思う。人と人とのつながりを感じられるような要素を組み込むべきであると考え。

また、私たちは、罪を犯した人を全く別のものとしてみるのではなく、同じ人間であること、そして自分たちも罪を犯す立場になりうることを自覚して、犯罪者への扱いを考えるべきであると思った。

☆

お話を聞いて、犯罪の恐ろしさを初めて身近に感じた。犯罪を起して捕まり、刑務所に入ることの恐ろしさは、刑務所での労働や、拘束される事であると思っていたが、一番恐ろしいのは、刑務所に入つた後の社会復帰であると改めて感じた。

☆

今回、話を聞かさせていただいて最も印象に残っていることが、更生することを回復と言っていたことです。更生という言葉にはあまり良いイメージがなく、もともと悪いものというイメージが出てしましますが、回復だと、もともと良いものであったと感ずるので、印象に残りました。

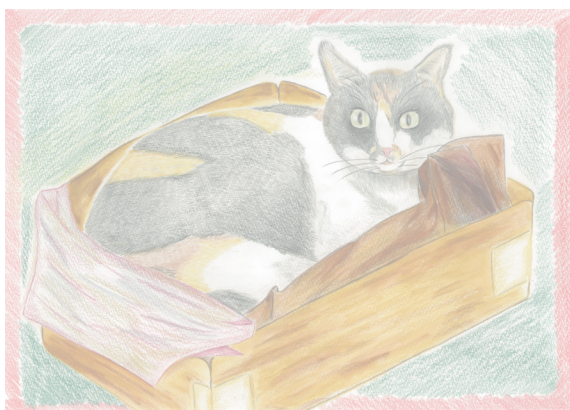
☆

犯罪をした人に対して、「怖い」という感情をもつ人や、「関わりたくない」と思う人は世間には多いだろう。だが、それでは社会は成長しない。

社会復帰しやすい環境を作り上げることとは、最終的に、犯罪に強い社会に繋がると考える。

☆

特に印象に残ったお話は、「犯罪をする人がもちろん悪いが、犯罪をさせている社会も悪い」というお話でした。たしかに、犯罪をする前の人間は、私たち犯罪をしていない人間と全く変わらず、何かちよつとしたことでつまずき、最終的に犯罪をするに至ってしまっただけで、根本は普通の人間と何も変わらないので、現在のように、重罰化を進めて、犯罪者との間に線を引いてしまうことはおかしいと思いました。



湘南のバイク乗りさん
「ミケ猫（うちの猫…）」

☆

五十嵐さんが、「僕も皆さんと同じ、赤い血が流れる一人の人間であり、モンスターではない」とおっしゃっていました。が、犯罪学でも学んだように、犯罪者も、社会で共に暮らす普通の人であると改めて感じました。

ただ、間違いを犯したことに変わりはないし、猛烈に反省し更生するべきであると思います。

「反省は一人でもできる。更生したかどうかは社会にいる側の人間が決める」という言葉が印象的でした。

犯罪者が社会に復帰する時、社会は彼らを突き放す場所ではなく、今後同じ過ちを繰り返すことのないように受け入れたり、「助けて」と言える環境を作ったりすることが、今、社会に求められている一番の役目かなと思いました。

☆

「一番身近なコミュニティである家族から信用されなかったことで、非行に走った」というお話は、授業の中で学ぶより現実味がありました。

今、自分のことを信用してくれている家族がいる、と思えるのは、当たり前ではないと感じました。

それと同時に、どれだけ信用していても、たった一つの行動で、その人に一生忘れられない傷をつけることもできる、という怖さも感じました。

☆

何か事件が起きて、テレビやネットで大々的に取り上げられると、日本ではほとんど「犯罪者」がバッシングされます。その「犯罪者」を取り巻く社会側に問題はなかったのかは、ほとんど無視されてしまいます。石巻事件はその一例でしょう。

マスメディアを通した、決して公平ではない情報だけで社会は壁を作ってしまう現状があると思います。私もその壁を作る一人でした。

お話の中にもありましたが、「犯罪者は、犯罪をする前にどこにいたか？」という根本的な考えが、社会では見落とされていると感じました。この言葉から、犯罪者は決してモンスターではないと分かりました。社会は犯罪者に対して、一人の人間としていかに向き合っていないか、痛感しました。

「反省は一人でもできる。しかし、更生は一人ではできない」という言葉の中に、社会側が抱える問題点が浮き彫りにされており、考えさせられました。

☆

「刑務所を変えていくのは、社会のメンバーである皆さんである」とおっしゃっており、確かに、主権者である国民が刑務所に対して関心を持つことは必要であると思った。五十嵐さんが、過去を振り返りながら、今を正しく生きているということが伝わった。

☆

「刑務所は犯罪者の養成所」という言葉がとても印象強かった。この現状を大多数の人は全く知らないことがとても悲しい。この事実を大多数の人が知って、刑務所が何かしら変われば良いと願う。

「犯罪者だから当たり前」と考えるような人が少なくなつてほしい。

☆

五十嵐さんは、両親の離婚や、いとこの下敷きがなくなった時に犯人扱いされ、無実が判明してもみんなに謝ってもらえなかったことなどが重なり、些細なことがきっかけで、犯罪の道に進んでしまったとお聞きました。

人が聞いたら「しょうもない」と思う理由でも、その人にとつたら、犯罪の道に進んでしまうくらい大きな出来事だったのかもしれない。とても複雑な気持ちになりました。

それだけの理由だと思いかもしれませんが、子供にとつてみれば、その一つ一つに重みがあつて、自分の生きる意味や生きている価値を見失い、犯罪に手を染めてしまうのかもしれない。



湘南のバイク乗りさん
「スティッチー!!」

いくら重い罪を犯した人でも、五十嵐さんのように、刑務所の中で自分の生きる価値、意味を見つけることができる機会を与えるべきであると思います。

それを見つけた五十嵐さんが、これらの自分ができることを行動しておられる姿に感銘を受けました。

☆

私が一番響いたのは、「受刑者も社会に出るために変わるのだから、今の社会も変わらないといけない。そして、社会が変わるためには国民の声が大事である」という趣旨の言葉です。

変わるのには、受刑者だけでなく、私たちと同じであると感じました。

そして、一番大切なことは、受刑者の方々も私たちと同じ人間であり、その意識を私たち国民が理解することです。それが社会を変えていくことにつながると感じました。

(来月号につづく…)

特別コーナー

マザー・テレサの言葉

＊マザー・テレサが以前日本で講演した際にお話しされた内容を、シスターからいただいたので、ご紹介いたします。

(先月号のつづき…)



死刑囚

自分が傷つくまで与える

微笑んでください

もう一つのひどい例をお話ししましょう。

ある日、私は道で小さな六歳の子を拾いました。その子の顔から、極度に飢えているのが分かりました。それで私は一切れのパンをあげました。その子はパンを手に取りましたが、ほんの小さいかけらを、ゆつくりとしか口に入れませんでした。

「食べなさい」と私は勧めました。「お腹が空いているでしょう。どんどん食べなさい」と。その子は私の顔を見て言いました。「このパンを食べ終わったら、またお腹が空くから怖い」と。その子は、ゆつくりゆつくり食べると、飢えがそれだけ減ると思ったのです。

飢えの苦痛はひどいものです。そこに私とあなたが入ってゆき、自分が傷つくまで与える必要があるのです。ただ物をあげさえすれば良い、というのではありません。傷つくまで与えてほしいのです。

このようにして与えるのは、神への愛を行いで示すことになります。

飢えは、食物がないということだけではありません。愛に飢えるのも飢えです。

老人や身体障害者、精神病患者、沢山の人が、誰からも愛されないでいます。この人たちは愛に飢えています。

このような飢えはあなたの家庭にもあるかもしれません。家族に老人がいるかもしれません。病人がいるかもしれません。この人たちに微笑みかけたり、一杯の水をあげたり、一緒に座ってしばらく話したりすることで、あなたは神への愛を示すことができるのです。

日本のような豊かな国にも、このような飢えを感じている人が沢山います。人間の愛とはどんなものか、忘れてしまった人たちが沢山います。誰も愛してくれない人はいないからです。ですから、早速実行しましょう。愛の喜びを周囲の人々にあげるように。まず家庭で、それから隣近所の人々へ。

あなたのクラスで隣に座っている人がさびしく感じているかもしれません。その

人に微笑んでください。あなたの隣の子はあなたほど勉強ができないかもしれないかもしれません。助けてあげてください。これが飢えです。

「このように分かち合うことで、本当に隣人を愛していること、神を愛していることをあらわすことができます。

衣服が無いこと

それから、衣服が無いことについて、イエスは、「私が裸でいる時、あなたは着させてくれた」（マタイ二十五章三十六節）とおっしゃいました。

寒い国で、貧しく着るものがなくて凍え死にしている人が沢山います。しかし、これよりもっとひどい裸の状態があります。それは、人間の尊厳を失った状態、清い心という美德を失った状態です。

あなたが傷つくまで与えることができれば、あなたはいつも、清い心という喜びでおおわれるでしょう。

家が無いこと

それから、住む家が無い人がいます。

日本の路上で、人が横たわっているのを見たことはありません。しかし、家が無いとは、住む建物が無いことではありません。酔っ払いや薬物中毒患者、必要とされていない、愛されていないと感じている人々が沢山います。これが社会にみられる現実の姿です。

「あー、あの人は精神病患者だ、あっちへ行け。あの人は頭が悪い、あっちへ行け」と言つて締め出しています。これが住む家のない状態です。これが、私たちが見るだけでなく、注意して心に向け、何かしなければならぬところなのです。誰か盲目の人が道路を渡ろうとしています。これも住む家の無い状態なのです。言つてその人の手を取り、一緒に渡つてあげてください。精神病患者の例をとると、私たちは彼らを笑いのものにしがちです。笑わないで、寄つて行つて手を取り、助けてください。優しくしてあげてください。

そうすれば、イエスはおっしゃるでしょう。「私が住む家が無い時、あなたは私に宿を貸し、力を貸してくれた。あなたは私を愛し、世話をしてくれた」と。これが生きた愛の行いです。

優しく愛を持つて

世話をする

このために、私たちの会の修道士や修道女は、一生を神に捧げる誓願を立てました。飢えている人、病人の人、精神病患者、アルコール中毒患者、重い皮膚病患者——こういう人々に食べ物を与え、衣服を着せ、住むところを提供し、優しく愛を持つて世話をするためです。



りなのパパさん

「こういうことができるためには、シスターたちは深い祈りの生活を持たなければなりません。」

「こういったわけで、イエスは、私たちにご自分の愛、力、愛する喜びを与えるために、ご自分を生命のパンになさったのです。神の愛に飢えている私たちの飢えを満たすために、ご自分を生命のパンとして私たちに与えてくださるのです。そしてその代わりに、イエスはご自分が飢えた者、裸の者、家の無い者になって、私たち人間の愛でその飢えを満たせるようにしてくださっているのです。」

愛の温かさを

このように、私たちが仕え、接する貧しい人々は、神への愛を育むのになんと素晴らしい機会を私たちに与えてくれていることでしょう。神が私たちを愛しておられるように、私たちも互いに愛し合うことで、神への愛を増すことができます。父母や先生と共に祈ると、会う

人すべてに、特に一緒にいる仲間や先生、道で会う人々に愛する喜びをあげたくなります。たぶん最初はたった一つの微笑みのように小さなことかもしれませんが、しかし、それが大切なのです。

私の忘れられない思い出ですが、ある日、ロンドンの街を歩いていて一人の男性に出会いました。その人はとても寂しそうで悲しげでした。私はその人のそばに行つて手を取り、握手しました。私の手はいつも温かいのですが、その人は私を見て言いました。「人の手のぬくもりを感じたのは本当に久しぶりです」と。

長い間、誰も彼に触れなかつたのです。誰も愛を示さなかつたのです。彼は握手した時、全く違つた人になりました。私に美しい、大きい微笑みを向けてくれました。なぜなら、愛の温かさを感じたからです。

神があなたを創られたのは、このため、すなわち愛するためです。ですから、神の贈り物を実際に行いに移して、愛の喜びを分け与えましょう。ただ見るだけでなく、注意して心を向けて、何かを行ってください。この何かをするということは、生きた行動で神への愛をあらわすことなのです。

心を清く保ってください

神があなたを愛されたように、あなたも人々を愛することによって、神への愛がもつともつと強まるように祈っています。皆さんも、私たちが大きな愛を持つて神の仕事が続けられるように祈ってください。そして特に、ある日、神があなたのところにおいでになり、あなたの心の中で語りかけて、貧しい人々のためにあなたの生涯を捧げるようにとおっしゃるよう祈ります。

心を清く保ってください。そうすれば、神の声を聴くことができます。神は沈黙した静かな心の中で話されます。そしてその時、私たちも心から神に願い、神に、そして周囲の人々に自分を捧げることです。神の祝福が皆さんの上にあり、喜びと幸せのうちに保ってくださいますように。世界中の貧しい人々のために祈りましょう。主よ、私たちを、兄弟である世界中の貧しい飢えた人々に仕え、助けを与えるにふさわしい者としてください。私たちの手を通して、今日彼らに糧をお与えください。そして、私の理解と愛によつて、彼らに平和と喜びがもたらされますように。

質疑応答

☆質問1

私たちは大抵、アフリカやインドに、たくさん貧しい人々がいることは知っています。しかし、実際にそういう貧しい人々を助けようと行動を起こす人はそんなに多くありません。それは恐らく、私たちが国際的な視野で世界を見ることに慣れていないためだと思います。

私たちが世界中のそうした貧しい人々のために、どのようなことをするように勧めますか？

☆質問1へのマザーの回答

一番いい方法、それは分かち合うこと、与えることから始めることだと思います。しかも、痛みを伴うまでに……。あの小さな子供の話（先月号参照）をしましたよね。それとよく似ています。あれは実際の話なのですよ。

今まで、どういうことをしましたか？あなたが個人的に、一人ひとりに対して、何をしてきましたか？

昨日のことですが、幼い女の子が私のもとにやってきて、お金をくれました。そして言いました。「これは、私の誕生日にもらったお金です。どうぞ、貧しい子供のために使ってください」と。

「このような小さなことでも、大きな愛の心を伴った愛の業なのです。愛とは、そういうものだ」と私は思います。

☆質問2

「日本人は経済的には豊かだけれど、精神的には貧しい」とよく言われます。たしかに、町などで物乞いをする人に遭遇すると、不愉快なものに映り、たびたび、助けることをためらいます。そういう人々に対して私たちがたびたび抱くような感情を、どのようにお考えでしょうか？また、こういう感情は、どのようにしたら克服できるでしょうか？



光りんさん

☆質問2へのマザーの回答

そういう感情は克服できます。もしも祈るならば…。祈るなら、心はきれいな（クリーン）になります。そしてイエスが「私にそれをしてくれたのだ」と言われた、まさにその人のことをきくと悟ることでしょう。つまり、その人（例えば、物乞いをする人）とは彼、すなわちイエスなのです。

そして、傷つけられたとしても、傷つけたその人を赦すことが必要です。さらに、愛すること、さらに、その人を裁かないで、愛を行動で示すことが必要です。

何も持っていない人がいます、ことに恐ろしいほどの孤独の人々、恐ろしいほど誰にも望まれていない人々がいます。その人々の心を和らげたり、貧困と孤独の恐ろしいほどの感情を取り除いたりして差し上げるためにこそ、あなたの愛があるのです。



死刑囚

神は愛である

神は私たちを大変愛しておられるので、御子イエスをこの世にお遣わしになりました。私たちは良い知らせを与えてくださいました。それは、神は愛であり、私たちが愛しておられること、神が私たちを愛しておられるように、私たちも互いに愛し合うように、という知らせです。

そして、イエスが母マリアの胎内に宿られたとき、マリアは他の人にもイエスがいになった喜びを伝えるために、急いで出かけました。そしてすばらしく、美しいことが起こりました。その時、エリザベトも子供を宿していましたが、その体内の子はキリストがおいでになったのを知り、体内で喜び踊りました。神はキリストの存在を伝えるのに、まだ生まれ出していない体内の子をお選びになりました。

今日、まだ生まれ出していない胎児が破壊の対象、殺人の目標になっているのは皮肉なことです。今日、中絶は最大の悪、平和の最強の破壊者となりました。母親が自分の子供を殺すなら、他人同士が互いに殺し合うのを、どうして止めることができるでしょう。

ですから、今日、ご一緒に祈りましょう！そして、私たちの両親が私たちを望み、愛してくれたおかげで、今日、ここにいることができるのを神に感謝しましょう！また、自分の胎内の子を亡き者にしようとしている母親たち全てのために祈りましょう！その子供を殺さないよう、助けましょう！その子を欲しがっている人が確かにいるのです。その胎児を産みたいという気持ち、守りたいという望みを、その母親たちに与えてくださるよう、神に祈りましょう！

愛し愛される

私たちは、愛し愛されるという大きな目的のために造られました。そして、イエスはどのようにして愛したら良いかを教えてくださいました。この愛はどこから始まるのでしょうか？家庭です。そして、どのようにして愛したら良いのでしょうか？一緒に祈ることです。

もし、家族が一緒に祈るなら、一体となるでしょう。家族が一体となるなら、

神が私たちを愛したように、私たちもお互いを愛するようになります。そこには平和があり、喜びがあります。その家族には幸せがあります。なぜなら、喜び、愛、平和のあるところには、神がおられるからです。そして、神のおられるところには、愛と一致があるのです。

このようなわけで、私はあなたがた親御さんに、子供に祈ることを教え、一緒に祈るようお願いしたいのです。先生方に、学校で祈ることを教えてください。う頼んでください。なぜなら、祈りは汚れの無い、澄み切った心を与えてくださいます。そして、清い、澄み切った心を持つていると、神を見ることができるようになります。さらに、お互いの中に神を見るなら、神が私たちを愛してくださいるよう、他の人々を愛するようになります。

神はあなたを、あなた自身として、一個人として、愛しておられるのを忘れないでください。神がどれだけ私たちを愛しておられるかはつきり教えるために、神はおつしやいました。「たとえ母が子を忘れることがあっても、私はあなたを忘れない。私はあなたを掌に刻んだ」（イザヤ四十九章十五〜十六節）。あなたは私の大事なものの、愛しい子である、と、神は私たちに語りかけています。

小さな事柄が 神の目にはとても大きい

私たちが愛しやすいように、そして神の愛を実践に移すことができるように、イエスは次のようにおっしゃいました。「私の兄弟のうち最も小さい兄弟の一人にしてくれたことは、つまり私にしたことだ。私の名において一杯の水を与えたのは、私にしてくれたことになる。私の名によって子供を受け入れたのは、私を受け入れたのである」(マタイ二十五章四十節等)と。

また、もつとはつきりさせるために、イエスは次のようにも言われました。「死ぬとき、あなたたちは裁かれる。死ぬとき、あなたたちは神のもとに戻る。神の面前に出る時、あなたたちは裁かれるのである」(ローマ二章十六節等)と。

そして、「あなたがたは、わたしが空腹のときに食べさせ、かわいていたときに飲ませ、旅人であつたときに宿を貸し、裸であつたときに着せ、病気のときに見舞い、獄にいたときに尋ねてくれた。あなたがたがしたことは何でも私にしたことだ。御父に祝福された者よ、来て、あなた

のために用意された神の御国を受けなさい」(マタイ二十五章三十四〜四十節)とも言っておられます。

神の愛はなんと素晴らしいものでしょう！神は、「飢えていた人に食べさせ、衣服の無い人に着させ、家の無い人に宿を貸したから、私のところ来なさい」とおっしゃるのです。こうした小さな事柄が、神の目にはとても大きなことなのです。

よく目を開けて見なさい

飢えは食物に対してだけではありません。恐らく、日本には、飢えで死ぬ人はいないでしょう。しかし、ひどく愛に飢えている人、つまり、必要とされたい、求められたい、愛されたい、と願っている人がいます。誰も愛してくれないので、寂しく、愛に飢え、自殺する人が大勢います。

衣服が無いとは、一枚の布が無いという意味ではありません。寒い国々で貧しさのために凍え死にした人は大勢います。しかし、衣服が無いとは、人間の尊

厳を失った、ひどい状態でもあるのです。純粹さ、清らかさという美徳が失われてしまった状態です。汚れない体、清い心、清純、貞潔、純潔、こういった美しい神の賜物を失った状態です。

住む家が無いとは、レンガでできた家、つまり建物が無いというだけではありません。もちろん、駅や公園や貧しい地域に行くと、家のない人がぼつんと座ったり、寝たりする姿を見るでしょう。このように家のない人々の姿を、私はロンドンで、ニューヨークで、ローマで見ました。寒い夜に、路上で新聞一枚敷いて寝ている姿は、ひどい、哀れなものです。

しかし、これよりももつとひどい、家のない状態があります。それはすなわち、周りの人々から拒まれ、必要とされない、愛されない、見捨てられた状態です。アルコール中毒のために家族から締め出された人、貧しく必要とされないために家庭から追い出された人がいます。



光りんさん

これこそ、神が私たちに「よく目を開けて見なさい」(マルコ十三章三十七節等)とおっしゃっている、飢えた者、のどの渴いている者、裸の者、家のない者なのです。私たちはよく目を見開いて、私たちの兄弟姉妹が飢えている、裸でいる、宿無しでいることを知り、その人たちのために何かしなければなりません。食べ物あげてください。宿を与えてください。優しさ、愛を示してください。その人には誰も、愛する人、思ってくれる人、導いてくれる人がいないのですから。

愛の実りは実行

愛されていない人を愛し、必要とされていない人を心の中に受け入れるようにする愛とは、家庭で始まるものです。どのように始まるのでしょうか？一緒に祈ることによってです。というのは、祈ると信仰が強められるからです。そうすると、私がすることは何であるかと、神ご自身にすることだと思えるようになります。信仰が強まった結果、愛が生まれます。

神が私を愛してくださる、そして私もそのように兄弟姉妹を愛する、ということ。愛には宗教は関係ありません。人種も関係ありません。皆、私の兄弟姉妹なのです。私たちは皆、同じように神の手でつくられたものです。そして、愛の実りは実行、奉仕でなければなりません。

「私」が何かをすることです。ですから祈りましょう！私たちの家庭に祈りをもたらしましょう！そして一緒に祈りましょう！そうすれば、神に何か美しいことをする勇気が湧いてきます。そして家庭の中で、お互いのために何かすると、それは神様のためにすることになるので



光りんさん

あなたは、自分の隣人が 誰だかご存知ですか？

私にとって忘れられない話があります。

ある日、一人の紳士が、「八人も子供がいる家庭が、もう何日も何も食べていません」と言いに来ました。そこで私は、お米を持って、その人たちの所へ行きました。その母親と子供たちの顔には、ひどい飢えがあらわれていました。私はその母親にお米をあげました。

すると母親はお米を二等分して、出かけていきました。戻ってきた母親に、「どこへ行ったのですか？何をしていたの？」と聞くと、彼女はとても簡単に答えました。「あの人たちもお腹を空かせているのです」。彼女は、隣のイスラム人の家庭も、ひもじい思いをしていることを知っていたのです。

私は、彼女がお米をあげたのには驚きませんでした。隣人も飢えているのを知っていたことに驚きました。

あなたは、自分の隣人が誰だかご存知ですか？隣に盲目の人、病人、ひとりぼっちで寂しい思いをしている老人がいるのを、ご存知ですか？もしご存知なら、

何かしてあげてください。ここに、偉大な愛を行う機会があります。知るようになり、何かをするようになるチャンスがあるのです。

ただ眺めるだけでなく、よく注意して見て、何かをしてください。そうすれば、あなたの心は喜びと平和で満たされるでしょう。なぜなら、誰かのために何かをしたからです。あなたの愛を、生きた行動で神に捧げたからです。

「あなたを愛しています」と口で言うだけでは十分ではありません。何かをしてください。その何かは、あなたに痛みを与えるに違いありません。真の愛は傷つくものですから。十字架を見ると、イエスがどれほど私たちを愛しておられるかが分かります。イエスは私たち、あなたと私を愛したから、十字架で亡くなりました。そして、私たちも同じように愛するように、と望んでおられるのです。

私たちの修道士、修道女たちは、貧しい者の中でも最も貧しい者たちに、喜びと愛を持って仕えることによって、生涯を神に捧げることが誓っています。彼らの祈りの実りは、神への愛を行いに移し、神と一致することです。私は、あなた方のお子さんの中からも、神が選ばれ、素晴らしい神の愛のうちに神に仕えるよう

召し出される人が出るのを願っています。誰からも愛されていない人を愛し、誰からも世話をしていない人を優しく世話してあげることができるよう、あなた方が神の愛のうちに成長し、聖なる者となるよう祈っています。神があなたたち一人ひとりを愛してください。あなたたちも互いに愛し合うようにと祈っています。

私たちが、神様の仕事を大きな愛を持って続けることができますように、あなた方も私たちのために祈ってください。

聖なるものでありなさい。聖なる配偶者となるために、イエスはあなたをお選びになったのです。神さまの祝福がありますように！



雪兎さん

「ハイ！メール」

(おわり)

むさきみつお コーナー

* ブログ : <http://ixsasaki.ti-da.net/>

ユーモアで

笑わせよう！

「あつはつはー」。満員電車の中で、思わず大声で笑ってしまった。周りの乗客が一斉に不審な目で私を見ている。

このところ、車中で、ジョエル・オースチン牧師のメッセージをイヤホンで聞いている。彼の礼拝説教はジョークで始まり、信仰と人情をミックスしたユーモアで、いつも会場は笑いと涙の感動と拍手で包まれる。巨大なバスケットボール・スタジアムを改装したレイクウッドチャーチ（於ヒューストン）には、毎週五万人を超える人々が訪れ、単一教会礼拝出席者数は全米一だ。

このメッセージは、ユーチューブ等で世界百か国以上に報道され、最後には必ず救いの招きがあり、多くの人がキリストを信じて救われている。

話題はいつも、自分と家族の愛に満ちたエピソードと、信仰によって試練を乗り越えた人たちの証である。笑いながら感動して聞いていると、暗い世にあつて明るい希望をもつて生きる勇氣と、目の前の困難に積極的に取り組む力が湧いてくる。

「私の推薦者はとても面白い人です。この人と話していると誰でも笑ってしまいます」。アメリカのロースクール留学希望の日本人の推薦者になることを承諾したら、推薦者の紹介としてこんなことを書いてきた。

「君ねえ、推薦者をこんな風に紹介したら、軽い人だと思われてまずいんじゃないか？」と質問すると、「いいえ、短期間にたくさんの方の入学願書を読む審査員には、型にはまった紹介はあまりインパクトがないそうです」と言う。「ふーん、そんなものか」と思っていたら、彼は首尾よく審査をパスして入学した。

どちらかというと、くそ真面目に近い私は、自分を面白い人だと思ったことはなかったもので、とても意外な気がした。

「試験に合格する秘訣は簡単だよ、ただ新約聖書のヤコブ一章五節の神の言葉握って、必死に神に願ひ求め、必要な知恵をもらえばいいんだよ！」等と真顔で語ったことが、ジョークだと思われたのだろうか。以来、自分はけっこう面白い人なんだ、という自意識を持つようになり、面白いことに注意が向いてきた。

例えば、民進党代表・蓮舫氏は、同党代表選前に、「私は岡田克也代表が大好きです。ただ、一年半一緒にいて、本当につまらない男だと思います」と冗談交じりに発言。早速ネット等でバッシングされたが、私はあまりにも当たっていたので笑ってしまいました。

岡田さんにフランケンシュタインというニックネームがついていると聞いて、また爆笑。かえって岡田さんに同情して政治への関心が強まった。

アメリカ大統領選挙でも、まさかと思われていた不動産王ドナルド・トランプ氏が当選した。同氏は数々の失言で人氣が落ちたになり、一時はヒラリー・クリントン候補が九十パーセント以上の支持率を獲得していたのに、とんでもないどんでん返しが起きた。

ジョークを交えて本音でズケズケ言ってきたトランプ氏の人間味が買われたのだ

ろうか。オースチン牧師もトランプ氏を支持したため、クリントン支持派からバッシングされたが、両者には、世間の批判を上回るほどの強力な個性が溢れているように思う。

ジョークを言える人は本音で生きている。まともに本音を言ったら相手を傷つけてしまうことがあつても、ジョークにすれば、笑いでかなり緩和されるからだ。周りの批判を気にして冗談一つ言えない人は、本音ではない、通り一遍の型にはまった話しかしないことが多い。ユーモアには、人を笑わせて感動させ、自分の真意を理解してもらう力がある。

「陽気な心が健康を良くし、陰気な心は骨を枯らす」（箴言十七章二十二節）



光りんさん

理事長の奥さんによる

育児日記

A君は、幼稚園に行き始めてから、「ありがとう」「ごめんね」と言う回数が増えてきました。それを見ているKちゃんも、何かをすると、「まあ、あーと（ありがとう）ね」と言ってくれる。

ある朝、A君がお絵かきをしていて席を外した隙に、Kちゃんが上からクレヨンで塗り潰してしまいました。A君が、「まあ、これA君がかいてたんだよー」と残念そうにしていたら、Kちゃんが「ごめんね、A、かいちゃつて」と言っていました。二人の会話がいつも優しいです。

この前、A君が「まあー、むしむしゲームやろう」と言うので、説明を聞くと、殺虫スプレーをかけられたら倒れる、というゲームだそうで、さっそくA君に「しゅー」とスプレーをかけたら倒れました。私が、「違っよA君、仰向けで両手両足を高く上げてバタバタと動かすんだよ」と伝授したら、きちんとやっていました（笑）。

Kちゃんはだんだんと強くなつてきて、A君はよく叩かれて泣いています。「だめだよ」と注意をすると、「うん、わかった」と頷いた後に、また叩いてニヤリと笑うのです。

赤ちゃんはよく天井をみてにににと笑っています。何が見えているのでしょうか…。



天使さんたちと
お話してるの♪

受刑者からのお手紙

塀の中の
たより

刑務所の暮らし

Fさん

さて、GWも終わり、もう初夏ですね！

受刑者の関心事といえば、食べる事と寝る事ではないでしょうか？皆様のおられる刑務所では、このGW、どのようなお菓子が出ましたか？私のいる刑務所では、三日に桜餅、四日にチョコ＆コーヒースケット、五日にチョコフレックが出ました。受刑者にとっては、GWが終わりますと、七月までが長いですね！

今回は、二つのお話を聴いていただきたく、投稿させていただきました。

一つ目は、当所の変わった風習についてです。

これは、一般工場・雑居部屋の話ですが、新入りで入りますと、部屋の者から、「いびきをかくか？」「歯ぎしりをするか？」と聞かれるそうです。そして、「いびきをかく」「歯ぎしりをする」となると、「出て行ってくれ」と言われるそうです。面白いのが、その言っている本人がいびきをかくたり歯ぎしりをしたりしているそうです。しかし、出る羽目になった者はたまりませんよね！部屋を出ると調査・懲罰になるのですから…。

なので、調査・懲罰の独居部屋では、(二つという風に追い出された、いびき・歯ぎしりをする人がたくさんいるので、)夜になりますと、グオーグオー、ギリギリ、ギリギリ。まるで動物園です(笑)。

二つ目は、私は恥ずかしながら、今回が三度目の受刑生活となります。以前から、「受刑者の中に、同囚の私物を盗む奴が居る」という話を何度も耳にしていたのですが、私自身、実際に見た事がないので、「懲役に来まで、本当に人の物、ましてや同部屋の者の私物を盗む奴はいるのか？」と半信半疑でした。

が、本当にいたんです！ビックリ！もちろん、同部屋になった人なのですが…。その人が持っているシャンプーが、一年以上前のシャンプーなのに、いつまでも持っている事に気付いたのです。最初は、「風呂の時、頭を石鹸で洗っているのかな？」と想像していたのですが、よく観察していると、毎回シャンプーで頭を洗っているのです。

そうこうしている内に、ある老人が、「自分の私物のシャンプーが減っている！」「乾電池がなくなっている！」「石鹸がなくなっている！」「切手がなくなっている！」「電氣カミソリがすり替えられている！」と騒ぎ出したのです。

そうなると、盗んだ人はビビッてしまって、すり替えていた電氣カミソリを元に戻し（許可印を貼り替える）、切手や石鹸、電池を、その老人に分からないように元に戻していました。

私はその現場を見てしまったので、その人に、「何故、老人の物を盗むのか？」と問いただすと、「老人だと、ボケているので、盗んでも分からんから」との返答でした。なので私は、「盗むぐらいなら、堂々ともらった方がまだましやろ！盗むな！」と意見をすると、そいつは「盗むのが楽しいから」と言っていました。

しかし、私が居ては盗むにも盗めず、私の事が煙たくなったようで、担当に私の不正をチンコロし、そのせいで私は調査・懲罰になってしまいました。それが昨年八月のことです。その後、調査・懲罰の繰り返しです。卑怯な人は、どこまでいつても卑怯な人です。オイ！俺の老眼鏡返せ！皆様の周りに、そのような人はいないでしょうか？いない事と、皆様の健康をお祈りしています。

分かれ道

御禿様さん

私は今、分かれ道にいる…気がします。

傍若無人な振る舞いをしている同部屋の先輩に対し、一石を投じるか否かを悩んでいます。なぜ迷っているのかというと、職業訓練の只中にいるからです。もし行動を起こし、その先輩と口論になり、調査になったら、今までの努力が水の泡です。でも、このままでは…。

ちなみに、先輩はどんな人物か？外面がいい。同囚や担当先生への陰口が多い。工場での序列がかなり上。担当先生からの信頼が厚い。機嫌の良し悪しが一目でわかる。序列が下の人間（私を含む）からは嫌われている。居室内で下の人間に対し、口うるさく言う割に、自分は不正三昧。裏で暗躍する。と、これだけみれば、「クセの強い人」というだけだ。ただ、先輩はこれだけではない…。

当所の遵守事項に、以下のような記載がある。「他人を脅迫し、威圧し、だまし、若しくは困惑させる言動をなし、又は他人に対し『義務なきことを強要してはならない』。『内の部分が肝です。先輩は強要しまくるのです。』

例を挙げると…食事の際、「汁物は絶対残すな」と言う。居室で使用する小机の向きを、先輩と同じ向きで使用するよう言う。居室で一番下つ端の人間に、次の日の予定を発表させている。行進の際、「腕を振るな」と言う。作業において、担当の先生が許可を出したやり方でやっても、「俺の教えた通りにやれ」と言う。などなど。

これは、紛れもない強要行為ではなからうか？本来であれば調査の対象ではなからうか？

「この人にも良いところがあるはずだ」と思い、好きになる努力をしてみました。が、逆にストレスになり、腕にじんましんが出る始末（苦笑）。皆の反応を見ると、「どこまで他人から嫌われるのも珍しいな」と思うほどです。

ただ、このままでは、大変な事故が起きかねません。それほど、私を含め、皆の不満が溜まっています。さて、どうしたものか…。皆さんはどう思いますか？



湘南のバイク乗りさん
「プーさん」

やればできるやんけ！

Ｔ・ーさん

自分の作文を所内誌に掲載していただきました。みんなに褒められ、オヤジ（※刑務所用語で、刑務官のこと）さんも喜んでくださり、また自分自身も嬉しく、感無量な気分です！

自分が認められた事、そして何より一番嬉しく思うのは、自分が人に喜んでもらえるような文を書けた事、そして、「こんな俺でも、やればできるやんけ！」と、勇気と希望を神からいただけた事が嬉しく、大感謝なのです。この喜びを他の方面へも生かし、いかに充実した受刑生活にするか、また、時間を大切に有効に使い、出所に向けて所内で学ばなければいけない事、出所後に社会で通用するには、認めてもらうにはどのような姿で出て行くか…もう自分には後がありません。崖っぷちに立っています。風に押されて下に落ちぬようにするには、自分で自分を鍛えるしかないと考えます。

支援してくださる人々はいるとしても、絶えず自分のそばには居てくれません。

「自由な状況の中から生活してもらう」。これがマザーハウスの指針ですから、自分も例外ではなく、出所後は誰からも束縛されず、「自由」だらけの中で生活していかなければいけないのだなあ…と、今更ながらですが、改めて、今、心から思います。

自分は、人以上に施設経験があまりにも長いため、社会の動きや社会に馴染めない部分が正直あります。ですが、人より遅く咲くにしても、「これまたキレイな花の咲き方、キレイな花やなあ…これは一体、何の花か？」と人に思ってもらえるような花を、出所後、一生かけてでも必ず見事に咲かせたいです！

話は変わりますが、五月十三日は母の日ですね。自分は、地元で母が一人で生活しています。病弱で、もう先は長くないはずなのです。親不孝な事に、今まで一度もカーネーションの花など送った事がありません。

以前、コンビニの申込書にサインしてお金を払ったら、花が母に届くという寸前までいったのですが、約三千円くらいだったと思うのですが、自分も正直、食費等の事を考えると生活は苦しく、まして生活保護だったため、泣く泣く断念しました。今となれば、ちよつと無理しても

送ってやったら良かったなあ…と後悔しています。

今日はゴールデンウィーク、五月三日です。あと十日で母の日です。手紙を出す事しか、今の自分にはできません。世界にこんな親不孝な息子はいないと思っています。自分は来年出所です。次こそは、母の日にどんな事があっても、カーネーション（ピンク）を母に贈ろうと考えています。

川柳

（同じく、）Ｔ・ーさん

・人として やらねばならぬ こと捜す

・泣き疲れ 今は折れても 明日笑え

・頑張れば 神は見ている 見てくれる

・転んでも 何かつかんで 起き上がれ

・俺の道 幸うすくても 味は濃い

「持っているもの」に 集中する

一兵さん

皆さんは今、何に感謝していますか？「特に何も無い」という人は、自分の持っていないものだけに目が向いていませんか。私たちは、自分の持っていないものに目がいき、それを持っている人を妬んだりしがち。しかしそれでは、気落ちして、周囲の人達をしらせ、更には自分の身に良い事も起きなくなります。運気が落ちるんです。



雪兎さん「獅子」

「持っている者には、更に多くのものが与えられる」(マタイ十三章十二節等)と聖書に記されています。既に持っている良い面に集中する事で、良い事が更に起こる状況が作り出されます。

自分の人生の良点と、感謝すべき点を考えてみませんか。精神面、肉体面、健康や満足感、家族や友人。既に多くのものを持っていることに気づきます。

身の回りで利用できるものを思い出し、みてください。知性を高めて想像力を育ててくれる刑務所の官本。日々の疲れを流してくれるお風呂。汗と一緒にストレスを発散し、自己鍛錬の場を与えられる運動場や運動用具。限られた生活を強いられる刑務所にも、このように与えられているものがあります。考え次第で私たちは裕福といえます。

毎日、自分が持っているものに感謝すれば、直ぐに気持ちが良くなるはず。

感謝すると同時に、自分を哀れに思う事は不可能です。感謝の気持ちを持てば、以前よりも、一緒にいて楽しい人物になるはず。愚痴ばかりを言う人と一緒にいたがる人はいません。感謝の気持ちを常に忘れなければ、幸せになれるんです。

減点法ではなく加点法で

(同じく、) 一兵さん

いつも人の悪口ばかり言っている人が、ある日突然、悪口ひとつ言わなくなるわけもなく、怒りっぽい人が急に穏やかになるというのも、限りなく無いに等しい。

「あの人は何故、いつもネガティブに物事を考えるのか。何とかならんのか(怒)」とイライラしたりする事が、日常生活上に多々あります。そんな時、「人の性格は根本から変わる事は難しい」と考えてみましょう。「変わってくれるかも」と、淡い期待をすると、自分が苦しむ事になります。

とは言っても、毎日顔を合わせなければならぬ場合、「変わってほしい」と祈りたくもありません。それなら、相手ではなく、自分自身を変えてみませんか。

私は、人の悪口ばかり言う人には、「気分が悪くなるから止めてください」とはっきり言います。それでも言う時は、話題を変えます。悪口を言われている人をフォローするという人もいますが、「聞きたくない」という態度を明確に示し

た方が、相手も少しずつ変わっていきます。数日間はその人とぎくしゃくするものの、気にしない事です。相手は相手なりに、対応の仕方を考えているはずですから。

大抵の人は、嫌々ながらも悪口に付き合うから、相手は益々、悪口を言ってしまうんです。悪い流れを断つには、自分の態度を変える事が第一です。

性格が変わってくれなくても、言動が変わってくれたら十分で、変化があったのだから、それ以上は求めない事です。性格ではなく、言動を変えてもらう事を考えて、少しでも成果があれば、それを認めることも大切です。(略)

悪い点を見る減点法ではなく、良い点を見る加点法で相手を見守りましょう。それは、社会でも刑務所の中でも同じだと思います。



一兵さん

挫けないで頑張りましょう

港の次郎さん

全国のマザーハウスの会員の皆様、お元気ですか。私、初めて投稿いたします、老人です。残刑期まだ十一年以上ありますが、お陰様で元気です。

マザーハウス事務局より、「この度、当法人に提出された身元引受人審査申込書を審査会において厳正に審査した結果、あなたの身元引受人になることを決定しましたので、通知いたします。尚、分類課に身元引受人の願せんを提出してください」という通知書を受け取り、それはそれは言葉に表現できない程の喜びを感じ、飛び上がって喜びました。

でも、この喜びも束の間の喜びで、幻の夢と消え去りました。非常に悲しかったです。

当所の分類課の先生が来たときは、「よし、身元引受人が決まった」と思い、嬉しきで一杯でしたが、称呼番号と名前を言いますと、「マザーハウスの柄受(＝身元引受)は不許可」との答えでした。

一瞬、目の前が真っ暗になりました。「えー」と返事にも詰まりました。作業にかかっても、ぼーっとしていました。

でも、少しずつ時が過ぎるうちに、心も静まり、「これも仕方ないか、誰のせいでもない、自分の責任なのだ」と、己に言い聞かせ、束の間の喜びでも夢を見させてくれたことに、深く深く感謝しております。私は決して、このくらいのことは挫けはいたしません。プラス思考で今後も頑張つてまいります。

全国には、私のように、マザーハウス事務局の皆さんからは温かく評価され、引受が決定されても、地域の観察所からは、その引受が不許可になる人もいると思います。でも、どうか、挫けないで頑張りました。



河童さん

キリストと出逢つて

K・Kさん

百万人の福音が六冊あります。幸いな人が三冊あります。私はこの半年、これらの本を毎日読んでいます。何度も何度も読み返しています。同じところを何度見たか分かりません。けれど、飽きることはない。どんなに面白いマンガや小説でも、一度読めば、二、三度目には飽きます。ですが、この九冊は、飽きるどころか、読むたびに新鮮で発見があります。その不思議さに惹かれます。寝てる時も頭の上に置いて寝ています。

クリスマスの方々の様々な活動や経験談、コラムやマンガ、キリスト教の歴史など、何度見ても一回目のように感じたり、以前の自分だったら、このような話に興味湧いたかどうかと言えはムリだったでしょう。今だから、このタイミングだからでしょう。四度の受刑生活で全てを失い、助けもなく、する所もなく、なつた、このどん底の精神状態だったからでしょう。そこにやはり、マザーハウスの方々、キリスト教の方々の優しさ、思いやり、温かさ、そして愛が込められてい

るからなのでしょう。それが私の心に染み込んだと思います。もつと言うと、私はずっと望んでいたモノがそこにあったように思います。

優しい言葉、丁寧な言動が書き記された本を毎日見ること、私のささくれ立った心や、いつも不満を抱えた思考や、イライラや怒りが消えました。このイライラや怒りが消えたことで、私は今、受刑生活が楽になりました。これまでは、この制限ばかりの生活、共同生活で、いつもイライラしていました。分かっているもなかなか止められず、自分では抑制できませんでした。それが、この半年で消えたのは、自分でもビックリしています。正直、奇跡が起きたみたいに思います。

今回逮捕される前ですが、元妻（十五年前に離婚済）と生活できるように受け入れられていたのですが、様々な理由により、ヤケになり、シャブに手を出してデタラメになり、元妻に多額の借金を残したまま逮捕され、その支払いの肩代わりを友人に頼み、毎月、元妻と友人が私に代わり支払いをしています。今までずっと、親やこの二人に甘えて生きてきた自分を思い知らされました。親には呆れられてしまった今回です。けれど、元妻と友人は未だに私を支えてくれます。その気持ちに応えたく、私もな

んとか薬物をやめたいと強く思うのですが、どうして良いのか策が分からずに居ました。

弁護士やダルクに便りを何回か送ったのですが、返事がなく、困っていました。とりあえず、薬物関係者との縁を切ろうと考えて、地元の警察・検事宛で、私の薬物関係者の実態全てを書き送りました。ボン中（Ⅱ覚せい剤中毒）仲間との面会や手紙、差入れも全て拒否しました。その後、受刑生活が始まると、工場内での会話（シャブや犯罪）に嫌気がさして、工場を出て、独居で懲罰を受けることにしました。計十三回、約一年の間、ずっと一人で自問自答していました。どうすればシャブをやめられるのか、今までの自分の人生での言動や心、起きた事、すべて振り返り、省みてみました。答えは、見つかったような、ないような感じでした。

満期まで独居で生活するつもりでした。けれど、多くの担当が私の為に働きかけてくれて、工場に出ることになったのです。その工場は、高齢者や、多少、身体に問題のある方たちの工場でした。私は過去の受刑で、拘留所の掃夫や、エリート工場で一類や二類で生活してきたので、はじめは戸惑いました。そこで、マザーハウスにつなげてくれた埼玉のおじさんと

出逢いました。その何気ない出逢いから、今のこの精神的・心の落ち着きに行きつきました。

今思うと、これらの出逢いや事象はすべて私にとって必要なモノのように思えます。そして、私がずっと望んでいたモノのように思えます。何か、自分が望んでいたモノが、次々に私の元に転がり込んできたように思います。これらはきつと不思議でも偶然でもなく、私がずっと生き方や人生に悩んで迷っているので、神様が見かねて遣わしてくださり、導いてくれたのではないのでしょうか。

シャブで悩み、迷いだしてから二十年、やっと抜け道の明かりが見えてきました。キリスト教の愛と感謝の心を知り、「マザーハウスの五十嵐さんは必ず手を延べてくれる」という言葉で心強さを頂き、そのつながりから、川口ホープチャレンジの薬物依存症の離脱活動を知り、私の中で、これでシャブをやめるための必要なモノは揃ったように思いました。「今までのように、一人でシャブと闘わなくていいんだ」と、心が強く持てるようになりしました。それに伴い、今までダルクはじめ、色々なところから見捨てられたと思っていた私の心が、「世の中、まだまだ捨てたモノじゃないな」と思えるようになりしました。今までの過程は、「ここに

繋がるまでの一端でしかなかった、神様はずっと前からこの事を用意してくれていたんだと、今は思えるようになりしました。

過去三度の受刑生活、出所後、一般社会に弾き出され、馴染めず、競争社会に疲れていました。そのコミュニティを出て、シャブや犯罪のコミュニティの中で生きてきました。生きていく為には、そのどちらかのコミュニティでの生活しかないと思っていました。しかし今回、新たなコミュニティがあることを知りました。キリスト教のコミュニティです。そこは、相手と競争することもなく、お互いが一緒に歩みましようという、愛と感謝があふれた場所でした。

五十嵐さんの「声を上げて助けを求めれば、必ず手を延べる」という心や、クリスマスの時に送られてきたデビツ子たちの心温まるメッセージ。そういう、キリスト教のコミュニティが、私の探し求めていた場所だと信じ切れます。

私も出所後は洗礼を受け、クリスチャンとして、キリストの教えを生き方の指標にして人生を歩むことに決めました。今までの私には、その生き方の根となるモノがなかったため、すぐに流されていたように思います。(略)

出所が近くなると、普通は早く出たい反面、必ず不安や心配が湧いてきます。けれど、今回はとても落ち着き、心が静かです。自分のことですが、信じられないくらいに静かです。現状は何も変わっていない。悪い状況ですが、何も不安がありません。

「木が良ければその実も良いとし、木が悪ければその実も悪いとしなさい。木の良し悪しは、その結ぶ実でわかる」(マタイ十二章三十三節)。
良い実を結べる木になります。

全て失った時に

Y・Tさん

「愛は表現するまで愛ではない」と、最近読んだ本に書いてありましたが、私たちのように貧しい者に対して、弱い者に対して、これほどまでの心配り、献身：私は、マザーハウスのスタッフの皆さんに、キリスト教、キリストの姿を見ました。

イエス様は、弟子たちの足を自ら洗われました。奢ってはいけない、人を使うものはまず人に従いなさいと…その教えの意味を、私はスタッフの皆さんの生き方の中に感じています。

五十嵐さんや皆さんに働きかける「愛の神」がいなければ、マザーハウスは存在しなかっただろうし、その神様が五十嵐さんを通して私に働きかけてくださるなければ、今の私はありませんでした。きつと、大きく口を開けた暗闇に自ら飲み込まれていったことでしょう。しかし、神様は全ての人にその愛を降り注いでくださり、私はその愛によって救い出されたのです。

かつての私はどうしようもない極道者で、本当にでたらめな生き方を続け、自ら破滅の道を歩み、自分を駄目にしていきました。そんな荒んだ生活の中で、どれだけのものを失ってきたのか…家族を失い、友人も失いました。唯一の居場所だった組織も追われ、全てのを失いました。そして、人の痛みを理解する、人としての心も失ってしまいました。

自分が痛んでいる、壊れていることさえ分からず、気づいた時には、自分が堕ちていく様と、もう誰からも必要とされていないという現実だけを、冷めた目で見

ていました。物質的なものや、この世的なものを全て失った時、知らず知らずのうちに、神様への道を求めるようになっていました。だからこそ、マザーハウスとの出会いがあり、キリスト教へと導かれたのだと思います。

その中で、今後自分がどのように生きていかなければならないかを考えた時、本当に過去の自分を捨て去らなければならぬのだと気づかされました。そう言っても、言葉で言うほどに簡単なことではありません。

私自身、まだまだ捨て切れずにいる部分も多くあります。しかし、それでも、例え少しずつでも、一歩ずつでも、噛みしめながら生きていくことが、過去の自分と決別し、自分自身がより良く生きていく為の道に繋がると確信するようになりました。

私が歩んできた道のりを通して神様と出会ったという事実は、まさにそれ以外ありえない、選択肢はこれだけ、これ以外に私が生きる道は有り得ない……という出来事であったと言っても、過言ではありません。これはやはり、私自身が神様に深く愛されているのだという実感を得たからこそ、芽生えてきた感情なのだと思います。

理事長の奥さんによる

Lovely DAYS

交際中も優しくかった主人は、私が持っていたバックを「持つてあげるよ」と言ってくれました。ですが私はどうしても自分で持ちたかったので、「大丈夫、自分で持つ」と答えました。すると主人は「持つてあげるつて」と言い、私は頑なに「自分で持てるから大丈夫」と答えるとき、主人が無理やりバックを取ろうとしたので、「ひったくりー!」と叫びました。その時の驚いて焦っていた主人の顔を時折思い出している、こうやってネタにしています。

自分の力をはるかに超えた大いなる方、神様を中心とした生き方の中で、自分の存在とは何であるか、これほど小さく、また無力な私が何の為に生かされているのか：考えます。聖書には、「カエザルの物はカエザルに、神の物は神に返しなさい」(マタイ二十二章二十一節)とあります。私ができることは、自分が誰かにしてもらったことを、新たに別の仲間に戻していくことです。愛されているからこそ、愛することができるのであり、恵みを与えることもできるのだと思うのです。

看護師 中谷さんによる

健康相談窓口

歯の数

皆様、いかがお過ごしでしょうか。

私は先日、理事長の講演会に参加して参りました。医務官との対談形式で行われましたが、素晴らしい方との出会いが人を変えていくのだと痛感した会でした。私たちは、どのようにでも変わる事ができます。なりたい自分に変われるように、努力し続けることの大切さを、私自身も改めて感じた時間でした。

今回は、昨春秋にご協力いただいたアンケート調査について、現在残っている歯の数(以下、「現在歯数」)に焦点を当てた分析結果をお伝えしていきます。

・アンケート参加者数 二二五名
・性別：男性二一九名、女性六名
・現在歯数の平均：二二、八本

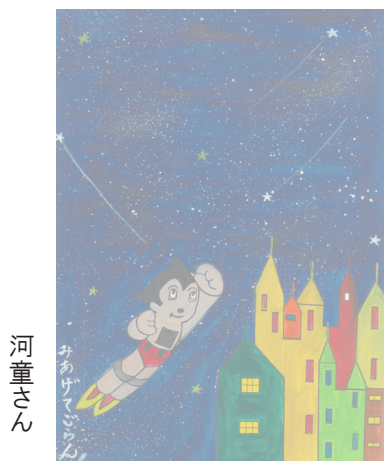
現在歯数については、親知らずを含めた三十二本が最大数となります。そのうち、抜歯などから無くなった歯の数をマイナスして、残っている歯の数を計算しました。

二十八本以上確保できている方々も多くいらっしゃる(七十四名)、反対に、すでに全ての歯を失った方もお見えになりました(六名)。

次に、口腔内のお手入れに関してですが、作業のある日は基本的に二回しか行うことができないことを教えていただきました。全体の六十パーセント以上の方は、一日二回以上お手入れしていると回答しており、ほとんどお手入れしないという方は、七パーセントほどいらっしゃいました。

最後に、データ間の関連を調べた結果をお伝えいたします。

「食事摂取量」には、「食後の満足感」「食事前の空腹感」「食欲の有無」「口腔内の手入れ頻度」「歯ブラシの交換」「歯の大切さの意識」が影響しています。「現在歯数」には、「食事摂取量」「食事前の空腹感」「食欲の有無」「排泄(排便)習慣」がマイナスの影響を与えることが分かりました。



つぶやき！

負けるもんか！
へこたれるもんか！
主イエス・キリストが
いる！
五十嵐弘志という男
がいる！
(カモミールさん)

ご寄付ありがとうございます！

4月16日～5月15日の寄付金

合計：987,354円

(内 愛のプリズム宣教基金：5,000円)

編集後記

こんにちは。いつもありがとうございます。

今月号では、締切ギリギリだ！何が何でも今日中に完成させるぞ！という時に、いつも使っているパソコンのソフトが使えなくなっており、問い合わせたら、「利用料の振込がされていないので解約状態になっている」とのことでした。あわてて再契約の手続きをして、なんとか間に合いました。毎月よくこんなにハプニングが続くなあと思うと同時に、毎回ちゃんと問題の抜け道も備えられてるなあと感じます！

たびたび、「この文章は文句ばかりで良くないんじゃないか」「たよりを読んで正しい考え方を学びたいです！」などのコメントをいただきますが、たよりに載せている文章は、「良い文章」「模範にすべき文章」という基準で選んでいるわけではないのです…。「生の声」「生の叫び」だと感じるものを選ばせていただいております、社会にとっては当事者に触れる（当事者を知る）場に、当事者にとっては想いを吐き出したり同囚の想いを受け取ったりする場になれば、という思いを込めて作っております！

たよりに関する感想、いつも励み・参考になっております。感謝です！
それでは、来月号もお楽しみに！

※先月号で、「心の相談室」コーナーは終了です。ありがとうございました！

マザーハウスたより編集局

具体的には、歯の数が少ない人は、食事摂取量が確保できない、食欲が無い、歯が無いことでしっかり咀嚼できない、また、消化液が十分でない、腸の蠕動が悪いために、「便秘」という症状が起きていることが、この歯の関連で示すことができました。

皆様は該当されていましてでしょうか。次回も引き続き、アンケート結果を分析した内容をお伝えしていきます。

行事予定

▼ 6/18

東京学芸大学にて、講義「刑務所問題」

▼ 6/19 12:50～

國學院大学にて、講演会

「人生を変える出会いの力」

▼ 6/20 18:00～

龍谷大学にて、APS研究会

▼ 6/30 14:00～

聖イグナチオ教会 岐部ホール 404にて、マザーハウス総会

▼ 7/2

龍谷大学にて、講義「刑務所問題」

▼ 7/3 18:00～

マザーハウスにて、当事者ミーティング

▼ 7/4 18:00～

聖イグナチオ教会 岐部ホール 310にて、APS研究会

▼ 7/9

社会事業大学にて、講義「刑務所問題」

▼ 7/10

東洋大学にて、講義「刑務所問題」

マリアコーヒー（ルワンダ・コーヒー）

＊製造から販売まで、元受刑者が携わっております。

FAX：03-6659-5270

メール：maria_coffee@motherhouse-jp.org（QR →）

価格：粉200g または 豆200g …… 900円

カフェドリップ10g（1回分）… 100円



☆継続して購入・販売してくださっている皆さま（順不同）☆

カトリック茅ヶ崎教会／カトリック北仙台教会／カトリック所沢教会／カトリック中和田教会／カトリック布池教会／カトリック東山教会／カトリック浜松教会／カトリック新子安教会／カトリック菊名教会／カトリック碑文谷教会／カトリック東仙台教会／カトリック春日部教会／クリスト・ロア宣教修道女会／カトリック足利教会／カトリック神田教会／カトリック松戸教会／カトリック戸塚教会／カトリック桃山教会（平和環境部）／カトリック大分教会／カトリック西千葉教会／カトリック下井草教会／カトリック新潟教会／日本カトリック神学院／ドン・ボスコ社



☆ルワンダの祈り☆



ルワンダでは、1994年、フツ族によるツチ族の大虐殺がありました。史上稀に見る残虐な内戦によって、ルワンダの人々は心身ともに非常に深い傷を負います。

しかし内戦終了後、恨みや憎しみから、復讐が復讐を呼ぶ状況に陥りかねない中、ツチ族の人々は、復讐ではなく、和解と共生を選択しました。マリア・コーヒーは、この和解と共生の地から届けられた生豆を使用しております。

獄中POSTシリーズ

＊獄中ボランティアの方の絵画と文字を
ポストカードなどに印刷する企画です。

FAX：03-6659-5270

メール：motherhouse.tayori@motherhouse-jp.org（QR →）

入手方法：会員の皆様や、ご寄付（5000円以上）くださった方々、

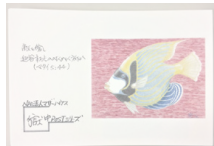
その他の機会等で感謝を込めて配布させていただく予定です。

（絵画＋言葉の組み合わせで、同じデザインは最大2枚のため、
デザインはランダムです。）

＊デザインの絵画部分を選んで購入されたい方は、講演会や郵送にて
販売しておりますので、お気軽にお問合せくださいませ。

（ポストカード／封筒は3枚で800円、便箋は30枚で800円）

ホームページ：https://npo-motherhouse.amebaownd.com/（QR →）



マザーハウスたより6月号

2018年6月15日発行 発行責任者：五十嵐 弘志

〒130-0024 東京都墨田区菊川 1-16-17-102 NPO 法人マザーハウス



↑ 理事長 facebook ↑ たよりブログ ↑ MLPのメール ↑ オンラインショップ

ラウレンシオ（便利屋業）

＊元受刑者の就労支援の一環として、不用品処理、遺品整理、

掃除などをさせていただきます。お見積もりは無料です。

TEL：080-4614-8508

FAX：03-6659-5270

メール：lawrance@motherhouse-jp.org（QR →）



古本募金（きしゃぽん）

＊書籍やDVDを下記送り先にご寄付いただくと、マザーハウスに還元されます。

送り先：〒358-0053 埼玉県入間市仏子 916

（マザーハウス事務所に送らないようお気を付けください）

TEL：0120-29-7000

Webコンサルティング

＊WEB解析士マスターの資格を持つ当事者スタッフが、サイト制作から解析、
マーケティングまで一貫したコンサルティングをいたします。

メール：sepi@websepi.com（QR 右→）

ホームページ：http://websepi.co.jp/（QR 左→）



ホームページ ↑ メール ↑

カウンセリング

＊当事者やご家族の方を対象に、当事者スタッフが、実務に役立つ専門的
なカウンセリングを行います。

メール：iwazakifuusui@gmail.com（QR →）

価格：30分5000円より

ホームページ：http://profile.ameba.jp/fengshui0708/（QR →）



お問合せ

いつも本当にありがとうございます。随時ボランティアの方を募集しております。

TEL：03-6659-5260

メール：info@motherhouse-jp.org（QR →）

ホームページ：「NPO マザーハウス」でご検索ください。（QR →）



☆ご支援☆

口座名：特定非営利活動法人 マザーハウス（トクヒ）マザーハウス

郵便振替口座：00170-0-586722

みずほ銀行：新宿支店 普通口座 2376980

正会員：一口5000円（年会費） 【獄POSミニセットをプレゼント】

賛助会員：一口3000円から 【獄POSポストカードを1枚プレゼント】

社会復帰支援：ご寄付 【5000円以上で獄POSミニセットをプレゼント】

☆洋服等の物資の送付先：〒348-0061 埼玉県羽生市稲子 36-5

（担当者：江口 TEL：080-4057-2518）